平成１９年度香小研国語部会夏季研修会　研修Ⅰ　分科会Ⅱ　提案資料

思考力・想像力を伸ばす国語科学習指導

第２学年　１年生に読み聞かせをしよう　「ニャーゴ」

人が文章を読む時にはどのような思考が働いているのか。読むことにおける思考力，想像力の中身を考えたい。さらに，読解の学習における指導過程の「基礎・基本」をさぐりたい。

物語文の指導過程例　**・人間の生き方について考える→**人間とはどのように生きるものなのか。
そのために，作者は，ある特殊な状況を設定し，その下での生き方を描く。
・描写のすばらしさを読む→ある言葉が生き方，人間性の象徴となっている。

１　学習問題を作る　　矛盾，人物の変容

拠点

例　「主人公は○○だなあ。
どうして・・・をするのだろう。その時の気持ちを考えたい。」

不思議だなあと思うことを見付ける。

ここに，人間の本質に迫る手がかりがある。

２　手がかりとなる「表現」を見付ける。
状況をあらわす「ことば」･･･情景描写など
心情をあらわす「ことば」･･･行動，会話，表情など

「表現」にこだわるとき，読む力がつく。

３　「表現」をもとに場面の様子や心情を想像する。
○具体化する＝色・声・香・味・触・心　　○動作化する。

「想像」は意味をとらえるためにする。

４　関係付けることにより意味をとらえる。　＜発見＞
関係把握しやすいように板書などの工夫が必要。
○異同：←→　＝，○順序：①　②　③　○因果：　←　○まとめと具体例：□囲みなど

５　感想をもつ。
「人間とはこういうものだ，こんな状況ではこうするものなのだなあ。」
「人間とはこんなことができるんだ。」・・・作者の語りたかったこと

読むとは，関係を把握し，意味をとらえることである。

語と語，語と文などその関係づけが正しいとき，確かな読みができている。また，関係付けが多様なとき豊かな読みができているといえる。

２年　「ニャーゴ」

「ねこは，ももを　だいじそうに　かかえたまま，」を読むとは・・・

①　音として読める。＝「kakaetamama」

②　語意が分かる。＝「落ちないように腕をまわして支え持ったまま」（岩波国語辞典より）

③　ねこの行動を動作化したり「持つ」と比較したりする。
ねこに対する子ねずみの気持ちや行動などと関係付けたりしながら，ねこの様子（表情）

「ももを　だいじそうに　かかえた」ねこ

や心情を想像する。

・ぼくはももが大好きなんだ。だから落とさないように。
・うれしいなあ。ねずみの優しさがつまったももだから大切に持って帰ろう。

④　「かかえる」が意味するものをとらえる

「かかえる」という言葉には，ねこのねずみに対する気持ちがうまく表されているなあ。
（描写のすばらしさ）

ねこはねずみが大好きになったのかな。（人間の生き方）

主張点

本単元で育成する国語力をこうとらえる

・　本単元では，事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むこと，楽しんで読書しようとする態度を育てることをねらっている。

1　単元構成のポイント・・・関心・意欲を高めるための単元構成の工夫

2　学習指導のポイント・・・①　時間的な順序，事柄の順序をとらえるための手立ての工夫
②　場面の様子や登場人物の気持ちについて想像を広げながら読み取るための手立ての工夫
③　読み取ったことを表現に生かす手立ての工夫
④　読書活動へと広げる手立ての工夫

1　単元構成のポイント

意欲的に活動するために，相手意識・目的意識をもたせる単元構成の工夫

〈子どもたちと立てた学習計画〉

一年生に読み聞かせをして、「ニャーゴ」のおもしろさを伝えよう。

①　思ったことを書こう。
②　登場人物を考え、場面分けをしよう。
③　だれが何をしたかまとめよう。
④　子ねずみたちがねこと出会ったときの様子を読み取ろう。
⑤　ねこが子ねずみたちを食べようとしたときの様子を読み取ろう。
⑥　ねこが子ねずみたちを食べなかったときの様子を読み取ろう。
⑦　ねこが子ねずみたちと別れたときの様子を読み取ろう。
⑧　音読練習をしよう。
⑨　グループで音読練習をしよう。
⑩　一年生に読み聞かせをしよう。

前単元の「雨の日のおさんぽ」では，アニマシオンをすることによって，物語を読む楽しさを体験し，その楽しさをだれかに伝えたいという気持ちをもった。また，音読の仕方を工夫し発表会をする中で，だれかに工夫した音読を聞いてもらいたいという気持ちももった。そこで，だれに音読をしたいか話し合い，「１年生に読み聞かせをしよう」という目標を立てた。前単元で芽生えた子どもの意欲を生かし，

以上のような単元を設定した。

「１年生に読み聞かせをして,「ニャーゴ」のおもしろさを伝えよう」という相手意識や目的意識をもつことで，音読練習や教材の読み取りに意欲的に取り組むことができた。

〈学習指導計画　全　１０時間〉

時		学習のめあて	主な学習活動
一次	1	物語の読み聞かせを聞いて，感想をワークシートに書く。 １年生に読み聞かせをしようというめあてをもつ。	「ニャーゴ」全文の読み聞かせを聞いて，初発の感想を話し合い，１年生に読み聞かせをするための学習計画を立てる。
	2	挿絵を参考に出来事の順序にそって，物語の大体の展開をとらえ，場面分けする。	教科書の挿絵を物語の順に並べ替えるアニマシオン「前か後ろか」のゲームに挑戦し，展開を確認する。
二次	3	挿絵ごとにだれが何をしたところかを短くまとめ，あらすじをとらえる。	好きなところを選び，だれが何をしたところかをまとめ，発表し，全体のあらすじを確かめる。
	4	子ねずみを威嚇しようとするねこと，全く怖がらない子ねずみたちの様子を読み取り，それぞれの気持ちを想像して，その食い違いを理解する。	三匹の子ねずみたちとねこが出会ったときや桃を食べに行こうとするときの様子や気持ちを読み取り，音読を工夫する。
	5	食べる桃の量を調節してまで子ねずみたちを食べようとしているねこの気持ちを想像する。	いっしょに桃を食べた後，子ねずみたちを食べようとするねこの気持ちを読み取り，音読を工夫する。
	6 本時	子ねずみたちから桃をもらって大きなためいきをつくねこの気持ちを想像する。	子ねずみたちを食べようとするねこと無邪気な子ねずみたちの気持ちを読み取り，音読を工夫する。
	7	子ねずみたちを食べずに別れていったねこの気持ちの変化を想像する。	ねこが子ねずみたちを食べなかった気持ちを考え，音読を工夫する。
	8	物語全体から好きなところを選び，自分で考えた会話も入れて工夫して読む。	好きな場面を選び，好きな理由を「おすすめカード」に書き，友達に紹介し合う。
三次	9 10	物語の順番を正しくとらえ，様子や気持ちを豊かに想像しながら，音読する。	物語の展開に沿って，どの場面を読むかグループ内で役割を分担し，１年生に好きな場面を紹介して，読み聞かせを行う。

2　学習指導のポイント

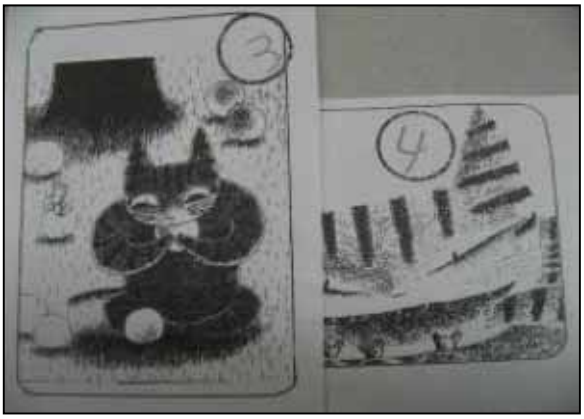
①　時間的な順序，事柄の順序をとらえるための手立ての工夫

ア　挿絵を使ってのアニマシオンの導入（第２時間目）

子どもの個人差に関係なく楽しみながら，かつ，時間的な順序をとらえさせるために，アニマシオンを行った。

子ども一人一人に挿絵のカードを渡し，教師の読み聞かせを聞いた後，カードに番号を書かせた。後で，挿絵を使って場面分けをすることを考え，教科書にはない第３場面の挿絵を付け足し，合計７枚の絵を使って行った。

順番を話し合う中で，本文に立ち返り，理由を話し合わせることで，時間的な順序にそって場面をとらえることができた。間違いが多かったのは，教科書にない挿絵（子ねずみとねこがももを食べている場面）で，それを最後の場面に入れている児童が６名いた。



〈子どもに配布したカード〉

〈カードに順番を書く子ども〉

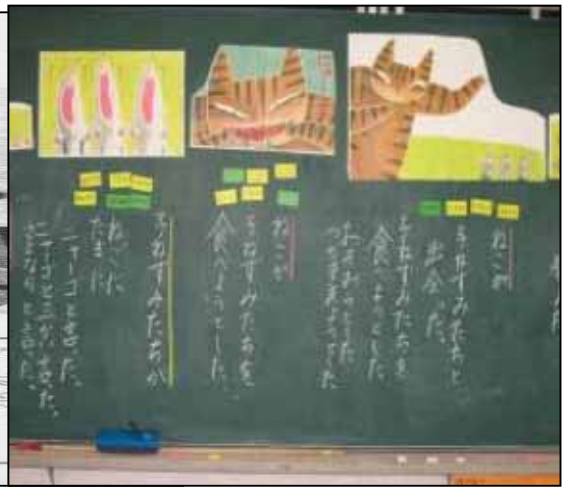
【東京書籍　新編新しい国語２年上「ニャーゴ」より】

イ　あらすじをまとめるための観点の提示（第３時間目）

好きな挿絵を選択し，「だれが，何を，どうした」か短い言葉であらすじをまとめさせた。「雨の日のおさんぽ」では，長く文を書こうとする児童が多かったので，ワークシートにかっこ（　）を作り，そこに書くようにしたので，短い文で書ける児童が多かった。

拡大した挿絵を活用し，子どもたちが考えた言葉を板書し，目に見える形であらすじをとらえるようにした。自分が選んでなかった挿絵のワークシートには，友達が考えた言葉の中で，「いい考えだな。」と思ったものを記入させた。

〈子どものワークシート〉



〈子どもの考えを挿絵ごとに書いた板書〉

【掲載資料：東京書籍　新編新しい国語２年上「ニャーゴ」より】

②　場面の様子や登場人物の気持ちについて想像を広げながら読み取るための手立ての工夫

ア　初発の感想の掲示

読み取り方の異なる部分もその根拠や理由を話し合いながら，それぞれの場面を想像豊かに思い描かせ，初発の感想からおもしろかったことや不思議に思ったことを発表した。

子どもたちの初発の感想を教室に掲示しておくことで，最初の感想と学習後の感想がどう変化したか比べられた。

【初発の感想】児童数２８人
- 先生の話を聞いていない子ねずみたちに目を向けた児童・・４人
- ねこに「たまおじさん」と話しかけている場面がおもしろかったと書いていた児童・・１１人
- 子ねずみたちが「ニャーゴ」と言っている場面がおもしろかったと書いていた児童・・９人
- ねこに桃をあげる子ねずみたちのやさしさに目を向けていた児童・・７人
- 子ねずみたちは，どうしてねこに桃をあげたのか不思議に思っている児童・・３人
- ねこは，どうして子ねずみたちを食べなかったのか不思議に思っている児童・・２人

「ニャーゴ」や「たまおじさん」などの言葉のおもしろさに目を向けている児童が多く，子ねずみたちを食べるはずのねこがどうして食べなかったのか，そこを疑問に思っている児童が少なかった。無邪気で優しい子ねずみとその天敵であるねこのやりとりのおもしろさに注目している児童も少なかった。

イ　気持ちを豊かに想像させるための支援（第６時間目）

・ 本文中から手がかりとなる「表現」を見付ける

本時は，子ねずみたちを食べなかったねこの気持ちを想像させた。ねこが食べられなくなったわけを子ねずみたちの言動から見付け，ねこがどんな気持ちになったのか考えていった。

〈教科書に線を引く児童〉

・ 他の言葉との比較

「おれのうちには子どもがいる。」と小さな声で答えるねこの気持ちを想像するのは，難しいと考えた。そのために，まず，「ニャーゴ。」と怖い顔で叫んだときと比較させた。

「おれのうちには子どもがいる。」を怖い顔で叫ばせたり，小さな声で答えさせたりすることを通して，ねこの気持ちを考えさせた。

〈授業風景〉

二つの読み方を比較することで「食べてやる。」と思っていたねこの気持ちが変化しているこ

とをおさえた。そして，「食べようか。食べまいか。」迷うねこの気持ちを二つの顔を（怖い顔と少し困っている顔）動かしながら確認した。

・　お面をつけての役割演技

顔に表情のないねこのお面を用意し，それを子どもにかぶせた。ねこの気持ちを想像することに集中させるために，子ねずみのお面は教師が付け，役割演技をしながら，ねこの気持ちや表情・行動を考えさせた。**気持ち・表情・行動（動作）**などの観点を与え，ねこの気持ちを想像することでペアでの学び合いで考えの深まりが出ると考えた。

〈役割演技の様子〉

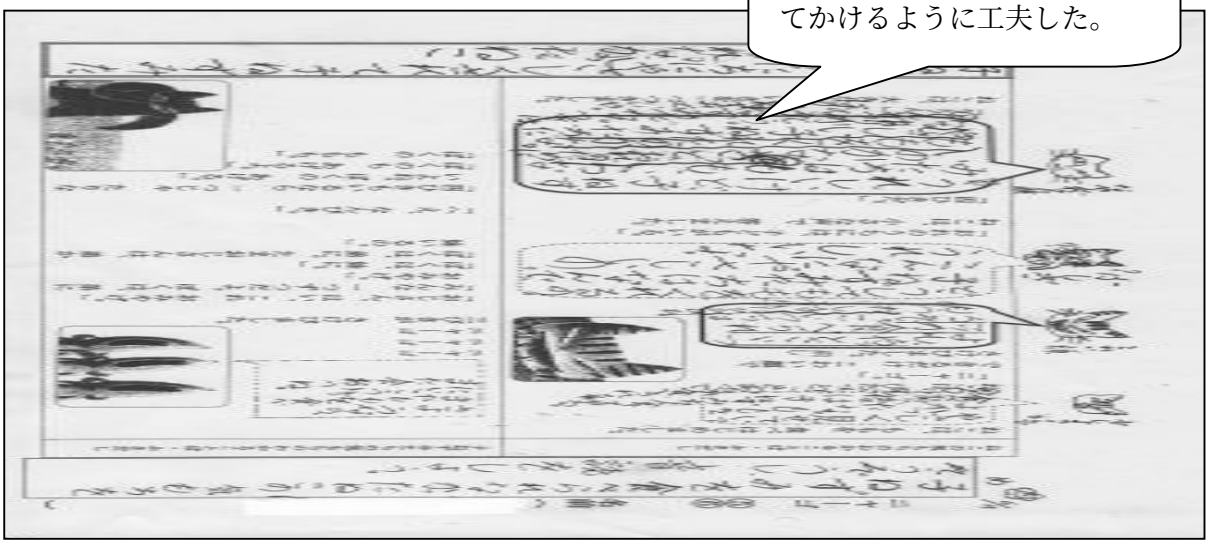
ウ　想像力を広げるための支援（第６時間目）

・　学び合いの場の設定

ペアで自分の考えを語り合うことを通して，「桃をもらった喜び」だけでなく，「食ってやると言おうとした自分（ねこ）に自分たちの桃までくれる子ねずみたちの優しさに触れたときのとまどい」に目を向けさせようと考えた。そのために，一人学びで想像したねこの**気持ち**や**表情**を交流させた。考えたねこの気持ちを友達と学び合うことを通して，想像力を広げることができた。

交流させる際には，話型を提示し，「自分との共通点や相違点を見付ける」「友達のよさを見付ける」という２点を交流の視点にした。

〈ペアで考えを聞き合う子どもたち〉



〈気持ちの変化をつかませるためのワークシート〉

【ワークシート中の挿絵：東京書籍　新編新しい国語２年上「ニャーゴ」より】

・　反応の組織化

ペアで学び合ったことを広げ深めるために，全体での話し合いの場をもった。そのとき，反応を組織化する必要があると考え，次のように，反応の組織化をした。

「桃をくれてうれしいな。」という考えから取り上げ，次に「子ねずみたちはやさしいな。」という考えを取り上げた。読みの浅いものから取り上げ，深い読みへと導いていった。

そして，最後に，子どもたちの半数が書いていた「本当は子ねずみを食べたかったのに。」という考えを取り上げた。子どもたちは，ねこの心の中の「本当は子ねずみたちを食べたかったのに。」という心の葛藤まで気付くことができた。

「子ねずみたちにやさしくされてうれしい気持ち」と「こんなやさしい子ねずみたちを食べられない困った気持ち」が混在し，「ううん。」と大きなためいきを一つついたねこの気持ちに気付いたといえる。

その結果，第４場面全体のねこの気持ちの変化を読み取らせる場面では，「食ってやる。」というねこの気持ちの変化を，手を広げて表すことを通して，子ねずみたちの「無邪気さ」「優しさ」によって，ねこの心が変化していったことを読み取らせることができた。

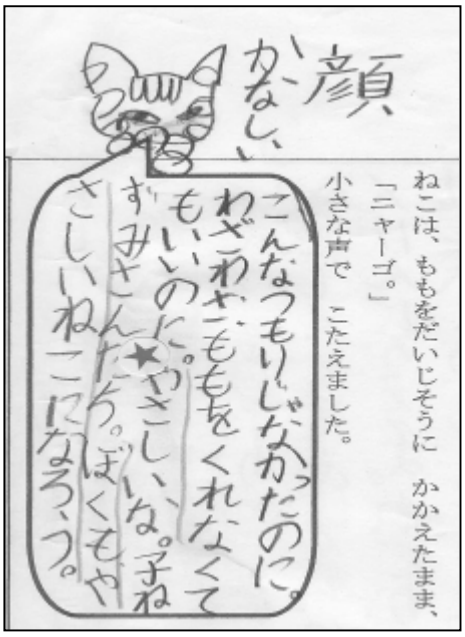
〈第６時間目の板書〉

【板書中の挿絵：東京書籍　新編新しい国語２年上「ニャーゴ」より】

第７時間目では，第５場面の学習をした。

子どもたちは，「ももをだいじそうにかかえたまま」という言葉や挿絵のねこの表情から，子ねずみたちのやさしさに触れ，「ありがとう。」という気持ちで子ねずみたちと別れているねこの気持ちを想像していた。

前時「本当は子ねずみたちを食べたかったのに。」とねこの気持ちを想像していた子どもたちも，「だいじそうに」という表現から，「きっと，ねこは子ねずみたちにやさしくされてうれしかっただろう。」とワークシートに書き，子ねずみたちのやさしさに気付いていた。



〈第５場面のワークシート〉

③　読み取ったことを表現に生かす手立ての工夫

ア　音読記号の活用

ねこの気持ちを読み取った後，その場面の音読の仕方を子ども一人一人に考えさせた。その際，音読記号を記入させた。そして，友達同士で音読の工夫の仕方を聞き合い，音読の力を高めていった。

イ　音読の工夫

「１年生への読み聞かせでは，役割分担をして，動作化もしたい。」という子どもの意欲を大切にするために，グループで音読の仕方を話し合い，音読の仕方を工夫していった。子どもたちは，まず，ナレーターを決め，次に，だれがどの言葉を読むか教科書に記入し，音読記号を確認しながら工夫をしていった。「動作をつけよう。」「もっと大きい声のほうがいいよ。」と子ども同士で音読を工夫する姿が見られた。

そして，グループごとに絵本を用意し，各教室に別れて１年生読み聞かせを行った。

１年生から「おもしろい話だったよ。」「音読の工夫をしていた。」と感想をもらい，満足気な子どもたちの姿があった。

〈グループでの話し合いの様子〉

〈読み聞かせを行う子どもたち〉

④　読書活動へ広げる手立ての工夫（並行読書）

ア　読書活動へつなげる教室環境の工夫

「ニャーゴ」の単元に入ったとき，子どもたちは，すぐこの話の世界が好きになった。そこで，読書の時間に，宮西さんの他の本「おまえうまそうだな」を紹介した。また，教室には，宮西さんの本をまとめて置いた。あえて，教師が何も言わなくても，「これも宮西さんや。」「これもやで。」と宮西さんの他の本も見付け，休み時間も本を読むようになっていった。

「先生，この絵本だれが書いたん。」と絵本を書いた作者へ目を向ける児童が現れ始めた。

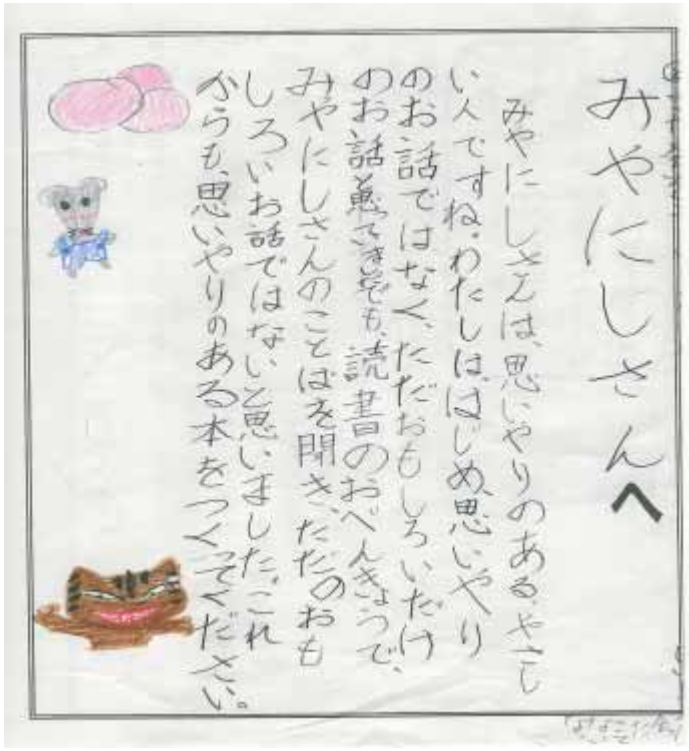
〈宮西さん本コーナー〉

〈休み時間に本を読む子ども〉

イ　作者宮西達也に目を向ける工夫　―宮西さんからのメッセージー

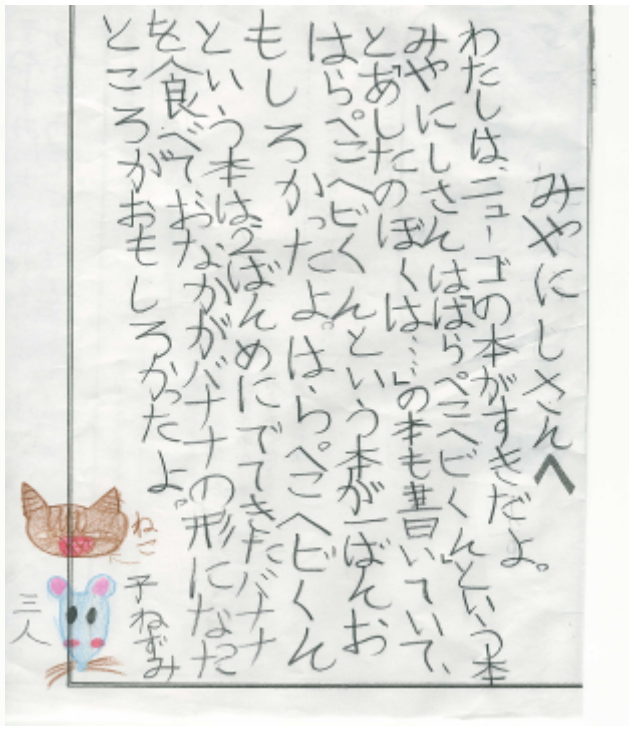
「ニャーゴ」の読み取りが終わった頃,「宮西さんからメッセージが届いているよ。」と投げかけ，「ニャーゴ」に寄せる宮西さんの言葉を聞かせた。そして，宮西さんへ勉強して思ったことを手紙に書かせた。「自分もやさしくなりたい。」「きっとねこも子ねずみたちのおかげでやさしくなっただろう。」と，このお話の主題をとらえている児童が多かった。

そして,「宮西さんの本をもっと読んでみよう。」と投げかけ，宮西さんの本を読ませたり，「ニャーゴ」の話と比べ読みをさせたりした。



みやにしさんへ

みやにしさんは、思いやりのあるやさしい人ですね。わたしははじめ思いやりのお話ではなく、ただおもしろいだけのお話だと思っていましたけど、読書のおべんきょうで、みやにしさんのことばを聞き、ただのおもしろいお話ではないと思いました。これからも、思いやりのある本をつくってください。

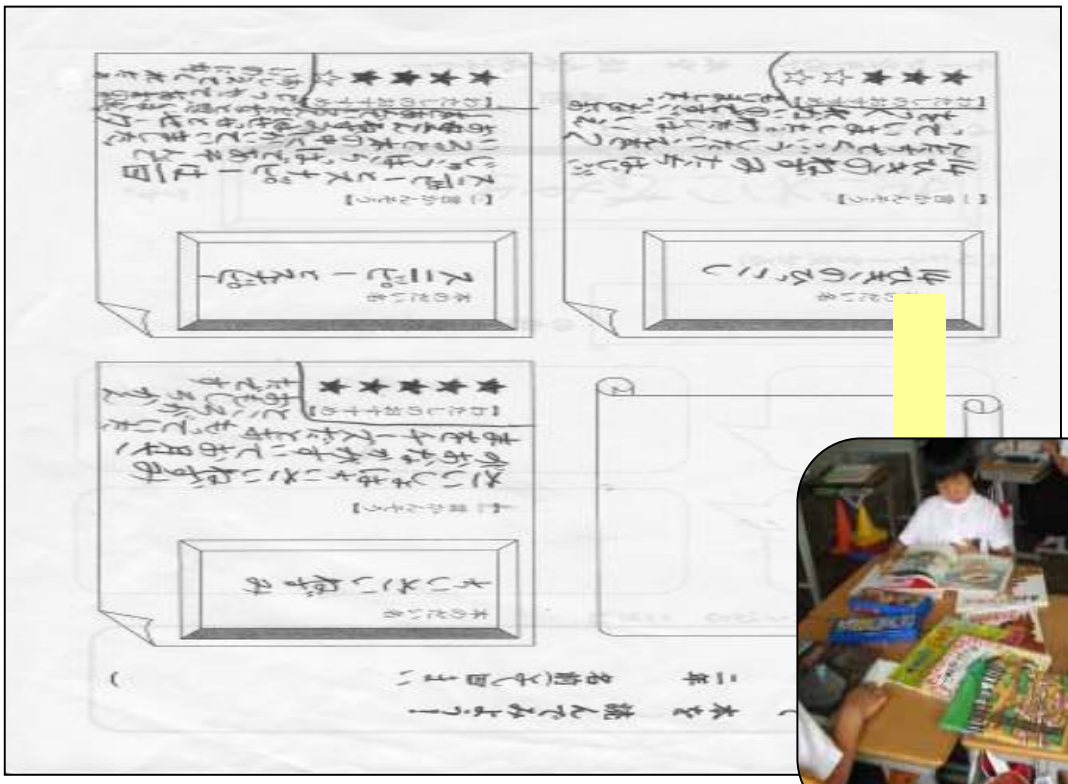


みやにしさんへ

わたしは、ニューゴの本がすきだよ。みやにしさんはぱらぺこへビくんというほんとおしたのぼくは…のまも書いていて、はらぺこへビくんというほんがいちばんおもしろかったよ。はらぺこへビくんは2ばんめにでてきたバナナという本はおなかがバナナの形になったところがおもしろかったよ。

ねこ　子ねずみ三人

ウ　発展読書「動物の出てくるおすすめの本を紹介しよう」



〈読書の足跡に利用したワークシート〉

〈テーマを決めた動物の本を読書する子ども〉

成果と課題

○　相手意識や目的意識をもたせることで，子どもたちは，音読練習や教材文の読み取り学習を意欲的，継続的に行うことができた。自分から音読記号を使って，音読を工夫しようとする児童が増えた。

○　教材文の言葉を手がかりに，ねこの気持ちを豊かに想像し，ワークシートに考えを書いたり，自分の考えを語ったりすることのできる児童が増えた。これは，物語の読みの視点が身に付いてきた結果であるといえる。

○　一人学びをもとに，ペアでの学び合い学習を行うことにより，いろいろなねこの気持ちに気付き，想像力を広げることができた。

○　子どもが想像した気持ちは，一つの気持ちにまとめるより，子どもが考えた多様な考えを取り上げ，広げるほうがよいことが分かった。そのとき大切なのは，どうしてそう考えたのか追求していくことである。また，本文のどの言葉を手がかりにそう考えたのか語らせていくことも大切であることに気が付いた。このような活動をすることで，自分の考えを発言できる子どもになっていくと思った。例えば，自分の体験とつないで，本文の言葉の「おみやげ」が大切な理由を語れる児童がいた。

○　学習と並行して読書をさせることで，作者に興味をもったり，他の動物の本を読もうとしたりする児童が増えた。

●　想像した気持ちと叙述をつないだ板書の工夫をしていく必要があった。

　想像したねこの気持ちだけ板書するのでなく，どの叙述からそう考えたかなども発表させ，「言ったことに目を向けたんだね。」「したことに目を向けたんだね。」と叙述を意識して考えられる子どもに育てていく。

●　最初の一人読みで記入した音読記号について話し合う場を設定すると，読みの深まりが評価できる可能性がある。